

# 支 援 部 通 信

平成30年4月10日

第1号

岩手大学教育学部附属特別支援学校 支援部

## 支援部です。よろしくお願ひします！

### 支援部の紹介

今年度の支援部は、5名の職員で担当いたします。

支援部は、お子さんへの支援の充実につなげられるよう、校内・校外の教育相談と在校生及び卒業生の進路支援を行っています。さらに、支援部学習会や進路説明会等を通して、福祉制度やより良い支援のあり方についての研修を推進して参ります。

支援部の取り組みや、お子さんへの支援、進路に関わる情報は、定期的に発行する『支援部通信』を通して保護者の皆様にお知らせいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 〈支援部の主な取り組み〉

教育支援	お子さんの育ちについての相談活動が中心です。必要に応じて、進路・福祉・医療等への相談支援を行う他、ご依頼によっては、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校への訪問支援にも対応いたします。
進路支援	在校生及び卒業生への進路に関わる相談対応や情報提供を行います。
同窓会	同窓会の業務を行います。
研修推進	支援部学習会の企画・運営を行います。
情報発信	支援部通信の発行や、ホームページを通しての情報提供を行います。

### 〈担当〉

				
佐々木 弥生	菊池 明子	田口 ひろみ	藤川 健	品川 倫行
・支援部長 ・支援部学習会担当 ・教育支援担当 *特別支援教育コーディネーター	・支援部副部長 ・教育支援担当チーフ *特別支援教育コーディネーター	・支援部学習会担当 ・教育支援担当 *特別支援教育コーディネーター	・進路指導主事 ・同窓会担当	・同窓会担当 ・進路支援担当 ・情報発信担当

### 教育相談室「あにわっこ」のご案内



教育相談室「あにわっこ」では、発達に心配のある幼児・児童・生徒とその保護者を対象に、お子さんの育ちについて相談や支援を行っています。

本校の保護者はもちろん、外部の方からの相談も受け付けております。相談費用は一切かかりません。本校ホームページやリーフレットに利用の流れ（申込手順）が掲載されておりますので、お気軽にご相談ください。

(教育支援担当：菊池明子、佐々木弥生、田口ひろみ)

## 特別支援教育コーディネーターのつぶやき

2月吉日、市内にある小学校を訪問支援しました。依頼内容は、「入学生保護者向けの講話をしてほしい」とのことで、約30分の時間を頂戴して話題提供をさせていただきました。

参加されていた保護者の方々から「あ、そうか!」「なるほど!」という相づちの音が漏れ聞こえていたということを同席されていた校長先生からお聞きし、『大事にしたいことを確認する意味深さ』を痛感した次第です。

テーマは「子どもとともに」です。これまで、支援部通信に掲載した内容と重複する部分もありますが、この度本校に入学されるお子さんの保護者の皆様はもとより、在校生の保護者の皆様にも目を通していただき、大事にしたいことを共有できればと思います。以下、内容を一部抜粋（変更有）してお伝えします。

### ○自立にあたり備えたい力

重要視したい力。それは、『基本的な生活習慣』です。この力が身につくにつれてこそ学びの習慣が身につくと言われていました。“**食う**（体をつくり、心を豊かにする）・**寝る**（脳の発達を促す）・**遊ぶ**（健康を増進し、発想力や想像力が育つ）”は大前提で、“元気に挨拶できる、人の話が聞ける、人に注目できる、集中できる、我慢したり協力したりができる、自分で着替えができる、持ち物管理ができる、時間管理ができる”などの力も含まれます。目指したい姿を意識して、日々の生活を大事に送りたいものです。



### ○子どもの育ちを支えるために親ができること

子どもにとって身近な大人の言動は、その子の社会性やコミュニケーションスキルを育てるツールであるとともに、集団生活・集団参加のあり方に大きく影響するといえるでしょう。学校では、集団が大きくなったり、同年代のお子さん同士の関わりが密になったりします。家で言っていること（言われていること）、やっていること（やられていること）が全てではなく、それが通用しない場面も出てきます。いわゆる「マイルール」「我が家スタンダード」です。本人が困らずに集団適応できるよう、適切な情報をインプットし、経験値を高め、アウトプットの仕方を身につけることを大切にしたいものです。「言えば分かる」・・・逆に、「言わなければ分からない」のです。一つ一つ丁寧に経験を積み重ね、子ども本人が損をせずに自分のいいところを存分に発揮できるよう、保護者の皆様に援助いただきながら楽しい学校生活にしたいものです。

### ○子どもの困りに寄り添う大切さ

どうでもいい子どもはいません。どの子も尊い宝です。「かけがえのない大事な子だよ。愛しているよ。」と発信しましょう。自己肯定感・自己有用感・自己有能感をもつ子どもは、日々の生活を楽しく充実させて過ごすことができます。ある冊子では、『自尊心とは等身大の自分に自信をもつことで、ほめられて育つ気持ちです。ほめられてきた人は他人を尊敬し、信じることができ、愛することができます。』と述べています。もし子どもがつまずいたときには、“何がそうさせるのか、現状はどうなっているのか、今後どうしたら良いのか”冷静に受け止めましょう。自分の養育を責めたり、学校を批判したりすることは避け、何かできることはないか方法を探りましょう。関係機関には、各方面の専門家がおり、話を聞いてくれたりアドバイスをしてくれたりします。

### ○子どもと共に

子どもは日々成長します。親も、子どもの成長と共に悩んで経験を積み、親になります。

『子育ては“個育て”』目の前の**個**ともじっくり向き合ひましょう。共働き家庭では、我が子と一緒に過ごす時間は限られてしまうかもしれません。時間の量より質を高めることも一つです。

『育児は“育自”』親とて時に失敗したり、落ち込んだりします。完璧でいる必要はなく、頑張っている姿を子どもに見せましょう。一生懸命な親の姿を見て、子どもは尊敬の念を抱きます。苦しくなるほど無理をする必要はなく、ちょっとした努力が自分を育ててくれるかもしれません。

『教育は“共育”』当事者（子ども）、家庭（保護者）、学校（教師）の三者が、互いに互いを認め合い、尊重し合い、信頼し合うことで共に成長していきます。学校での悩みは、溜めずに迷わず教師に相談しましょう。話すことで楽になったり、快方に向かう糸口が見えてきたりします。 <菊池>